

# 地域の「知」を核とした

## 南東北3県

### 福島



福島大学キャンパス

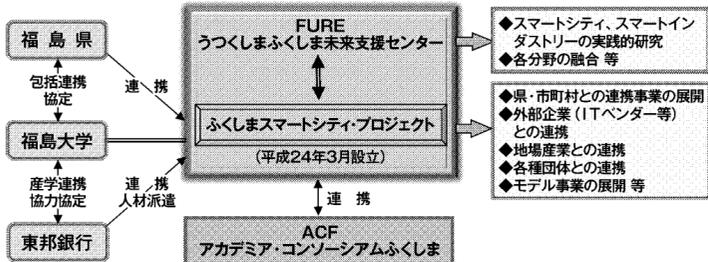
地域と連携  
福島県は、東日本大震災に加え直後に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故により未曾有の被害を受け、いまだ多くの課題を抱え復興への道は険しい。特に他の被災地と異なり原発被害は早期復興への妨げとなっている。福島大学は震災の発生直後から、避難者・被災者へのボランティア支援や放射線汚染地域での線量測定などの支援活動を県や市町村、NPO

### 福島大学うつくしま未来支援センター

### 再生へシステム構築

○などと連携し実施してきた。さらに2011年4月には地元国立大学の使命の思いから福島大学の震災および原発事故被災地域の復興・復興支援をさらに加速・強化させることを目的に、うつくしま未来支援センター(山川充夫センター)長福島大学人文社会学部経済経営学類教授を設立した。同センターは、東日本大震災と福島第一原発事故に伴い発生した被害の現状を科学的に調査・研究し、その事実に基づいた

### うつくしまスマートシティプロジェクトの体系



※ACFは福島県内の全ての大学、短大、高専で構成

産学官の連携事業として、福島大学と東邦銀行が締結した「産学連携協定」をもちに2012年3月に「うつくしまスマートシティ・プロジェクト」を発足した。福島大学の知見と福島県などの民間企業を持つ経営手法を活用し、企画・実施計画に対するコーディネートやアドバイザーを行うことで、県内自治体などが取り組むスマートシティ構想の実現を支援する。プロジェクトを担当する渡辺正彦福島大学

### スマートシティ構想

客員教授は、「地域で異なる復興支援とビジネスの具現化のため、民間企業の目線で実践的な支援を行う。地域経済の活性化や新産業、雇用の創出につながるべく、地域に合った構想を打ち立て、土湯温泉の再生を柱とした「土湯温泉スマートコミュニティ」構想の事業化に参画している。土湯温泉は、全国の温泉街が抱える利

いわき金属工業協同組合  
福島県いわき市常盤下船尾町杭出作23-33  
理事長 鈴木 倉巳  
副理事長 村田 信二  
専務理事 関口 敬正 小野 行彦  
TEL 0246-43-4321  
FAX 0246-43-4322  
http://www.015.upp.so-net.ne.jp/iwakikinzo/

Battery Pack Custom  
電池パックのことなら、東洋システムにお任せください  
小ロット対応可能!  
東洋システム株式会社  
TOYO SYSTEM CO., LTD.  
http://www.toyo-system.co.jp

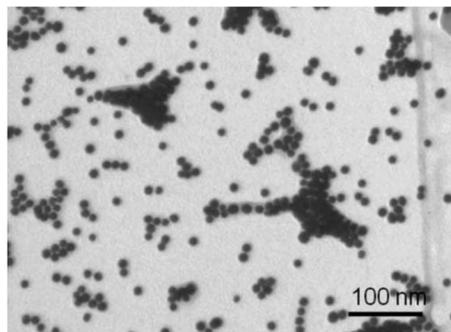
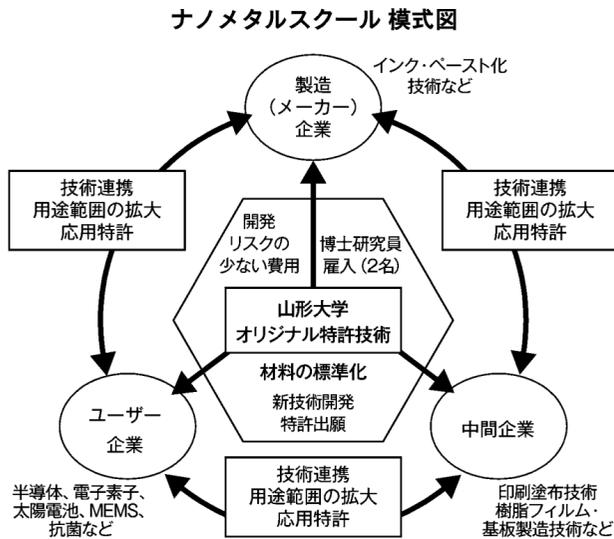
リニアモーションベアリング  
TSKリニアガイド TSK精密ボールネジ TSK直動軸受製品  
竹内精工株式会社  
TEL(代表): (0246)56-5281  
FAX: (0246)56-5282  
e-mail: sales@tsklmb.com  
http://www.tsklmb.com

省力化機器から大型設備  
株式会社いわき精機  
TEL 0246-36-0118  
FAX 0246-36-0081  
http://www.iwakiseiki.co.jp/

曲線のアーチスト  
各種鋼材曲げ加工  
有限会社村田工業所  
TEL 971-8183  
FAX 0246(75)0061  
http://www.murata-kogyosho.jp

クイックオープン方式  
株式会社三洋鉄工所  
TEL 0246-56-4521  
FAX 0246-56-4381  
http://www.sanyotekko.co.jp

一本で支える世界がある  
東北ネチ製造株式会社  
TEL(代表) 971-8184  
FAX(代表) 0246(56)-4575



銀ナノ微粒子の電子顕微鏡写真

用途開発へ  
新技術で得られる銀ナノ微粒子の平均粒径は約10nm。有機反応溶媒を排除した簡便な合成が可能。100度以下での焼成ができ、量産化への道を開いた。  
新技術による銀ナノ微粒子は、山形大有機エレクトロニクス研究センターの時研究室などにも提供しており、同研究室では携帯電話などの基本回路素子である相補型金属酸化膜半導体(CMOS)と同程度の性能を持つ擬CMOSインパクター

### 銀ナノ微粒子 量産へ道

としての役割も担う。銀ナノ微粒子の用途は有機エレクトロニクス分野などの電材、有機太陽電池分野、抗菌関連などが想定される。特にPET技術への用途開発は期待が高まっている。特にPETの課題もまた多いという。基礎となる材料表面の処理技術など複合的な技術が必要である。インクと基盤材料の相性を突き詰めていく研究など一段の工夫を重ねていく必要性も指摘されている。山形大のナノメタルスクリーンでは、まず銀ナノ微粒子の適用化技術を固めて、新たなインクナノ微粒子の連携研究も視野に入れている。国内産業強化に向けた挑戦が続く。